

協同は新型コロナの分断を乗り越える

「2021 国際協同組合デー in 愛知」実行委員会

国際協同組合デー（7月第一土曜日）は、世界の協同組合が、協同組合運動の発展を祝い前進を誓い合う日です。愛知県では2012 国際協同組合年以降、JAグループ愛知、生協グループ（コープあいち、南医療生協、北医療生協、大学生協連東海ブロック）、ワーカーズコープ東海事業本部、NPO 法人地域と協同の研究センターが協同して、記念行事を開催してきました。

今年は円卓会議（Round Table Talks：参加者間の相互関係や席次にこだわらない）として開催します。テーマに関心をもつ協同組合関係者や団体・個人が、問題解決のためにつながりをひろげる機会とします。オンライン（Zoom）で開催します。

一般の方、愛知県外の方も是非ご参加ください。

日時 **7月2日（金）13：00～16：00**

参加方法 **オンライン（Zoom）参加**

※自宅や職場から仲間・個人がオンラインを通じて考え合う

●ZoomID、パスコードのご案内は7月1日（木）夕刻の予定

< 記念行事のすすめ方 >

12：45	オンライン開場
13：00～13：30	全体会：開会挨拶 趣旨説明「現代社会と協同組合の協同」（向井清史名市大大学院特任教授） 分科会テーマ紹介
13：30～15：30	分科会：6つのテーマに分かれて、実践事例を報告し、参加者で考え合います。 各分科会の内容（予定）、コーディネーターは裏面をご覧ください
15：30～16：00	全体会：各分科会の内容を共有。今後の愛知県円卓会議への参加を呼びかけます。 各分科会からの報告（各5分）、 閉会挨拶

< 参加申し込みのご案内 >

申込期日：6月23日（水） 申込先：地域と協同の研究センター

申込方法：下記メールアドレスに、必要事項を入力し、送信下さい。

メールアドレス AEL03416@nifty.com

【必要項目】

■職業か所属組織（部署名・役名等）、もしくは居住地（市町村）

■お名前、■メールアドレス、■希望分科会：第一、第二、

【ご確認をお願いします】

●分科会は、ご希望に添えない場合がある点をご承諾願います。

●お預かりした個人情報「当記念行事運営のみ」に使用します。

<分科会> ※「交流事例とテーマ（予定）」に関連する事例があれば参加者のみなさんから発言ください。

① 生産と消費（食の農）をつなぐ

地元で採れたものを地元で食べる。当たり前なのですが、意外と意識されていません。地元のものは新鮮で日持ちがいいだけでなく、地域の農業を守ることを通じて、食料自給率はもちろん、生活環境や防災力等に寄与する効果もあります。生産と消費をつなぎ県内の循環を高めしていく方法を考えます。

【コーディネーター】JAグループ愛知：山口豊喜氏

【交流事例とテーマ（予定）】

- 3年に1度の愛知県JA大会を機に取り組み、愛知の生産と消費をつなぐ企画案（JAグループ愛知）
- 地域生協と県下JAが連携した、地元産の消費拡大（コープあいち）

② 健康と人のつながりを取りもどす

コロナ下でも実行された取り組み、健康維持・回復への願い、密を避けつつ「つながり」をつくってきた実践をもとに考え合います。

【コーディネーター】南医療生協：柴田純一氏

【交流事例とテーマ（予定）】

- コロナ禍における協同組合の実践~ひとのつながり~（南医療生協）
- 「コロナ渦をのりきる！」健康づくりの実践（北医療生協）
- 孤立を解消する友達づくり（大学生協） *（コープあいちからコロナ禍の状況（感染予防等）を意見交換の中で報告予定）

③ 新型コロナと協同組合間協同

コロナ下で協同組合を超えた連携：大学生協とコープあいちの人事交流報告、学生調査で分かったコロナの影響、協同組合インターンシップから協同組合間協同を考え合います。

【コーディネーター】大学生協連東海ブロック：村瀬健一氏

【交流事例とテーマ（予定）】

- コロナ禍で需要が低下した「花き」の有効活用（JAグループ愛知）
- コロナ下の大学と大学生・大学生協（大学生協）
- 大学生協と地域生協の協同組合間人事交流—2年間の大学生協出向から（コープあいち）

④ 主体的な働き方をめざす協同組合

地域課題を住民自身が解決するために仕事をつくりはたらく協同組合法が成立、生活支援や農業などの地域課題にどう活かすのか、可能性を探ります。

【コーディネーター】ワーカーズコープ：岡田俊介氏

【交流事例とテーマ（予定）】

- 全員参加型・組合員主体の働く人と地域のための協同組合とは何かを実践団体が持ち寄り語る（ワーカーズコレクティブ愛知・愛知県高齢者生協・ワーカーズコープ）

⑤ 子ども食堂・学習支援・食料支援と居場所

コロナ下における実践（フードステーションや学習支援の工夫等）を共有し、「健康なくらしと人と人とのつながり」を復興する実践を、協同組合間協同などのつながりの中で考え合います。

【コーディネーター】北医療生協：河村徳夫氏

【交流事例とテーマ（予定）】

- コロナ渦での、子ども食堂とフードステーションの取り組み・状況（わいわい子ども食堂・北医療生協）
- みんなの食堂とJA・生協組合員、地域企業、住民のつながり（ワーカーズコープ）
- 学びの場と居場所として（NPO 法人ポトスの部屋） ●生協店舗での「フードドライブ」（コープあいち）

⑥ 巨大（自然）災害に備える

巨大災害に備え求められる三者（民間・企業・行政）連携とその中での協同組合の役割について、先行県の事例をもとに考え合います。★助言者：栗田暢之氏（NPO 法人レスキューストックヤード代表理事）

【コーディネーター】コープあいち：柴山 実氏

【交流テーマ】

- 愛知県生協連・災害対策委員会のとりくみから（愛知県生協連）
- 地域・大学・自治体との災害・防災協定を生かす（大学生協・医療生協・コープあいち）
- 先進県の官民連携と生協・農協の関わりなど

実行委員組織：JAグループ愛知，コープあいち，南医療生協，北医療生協，大学生協連東海ブロック，ワーカーズコープ東海事業本部，地域と協同の研究センター